

# 平成 20 年度 財団法人浜松市フラワー・フルーツパーク公社 事業報告

## 1 概況

(1) 昨今のレジャーの多様化、また金融危機以降の長引く景気低迷等、社会環境は一段と厳しさを増す中で、当公社においても更なる経営の合理化と利用者ニーズ等需要の変化に対応した事業運営に努めました。

フラワーパークの年間有料入園者数は 320,525 人で、対前年比 21,631 人、6.3%の減少となりました。計画目標は 33 万人としており、達成率は 97.1%となりました。

フラワーパークでは、定着化した大型イベントの積極的な事業展開と、「百種接分菊」の展示や、夜桜、クリスマスイルミネーション等夜間開園の強化による園の一層の魅力創出に努めましたが、桜の満開時期が早まり平成 19 年度中となったことや消費の落ち込みが続いたことが重なり、入園者数の増加につなげることができませんでした。

フルーツパークの年間有料入園者数は 198,377 人で、対前年比 5,567 人、2.7%の減少となりました。計画目標は 20 万 5 千人としており、達成率は 96.8%となりました。

フルーツパークでは園の中心事業である「くだもの収穫体験」で高品質の果実の提供に努めたほか、収穫体験を重視した植栽変更を行うなど、利便性の向上を図りました。また、大型イベント「アーモンドフェスタ」や「雪まつり」、地元都田地域と協力して開催したゲンジボタル観賞会、つり堀事業、その他奥浜名湖観光連絡協議会やグリーンツーリズム協会、地元温泉施設「あらたまの湯」をはじめとした奥浜名湖観光施設と連携した事業を展開し、園の魅力を積極的に情報発信するなどして誘客につなげました。

事業量 (有料入園者数) (単位：人)

| 区分     | 計       | フラワーパーク | フルーツパーク |
|--------|---------|---------|---------|
| 予算     | 535,000 | 330,000 | 205,000 |
| 決算     | 518,902 | 320,525 | 198,377 |
| 無料入園者数 | 122,748 | 61,391  | 61,357  |
| 有料無料合計 | 641,650 | 381,916 | 259,734 |

合計の有料入園者数は計画目標とした事業量を下回る結果となりました。

しかしながら、フラワーパークでは浜名湖花博開催以降、類似施設や複合商業施設のオープン等、年々厳しい経営環境が続く中、33 万人前後の有料入園者数を維持してまいりました。一方、フルーツパークは開園から 10 年以上の年月を経て園内果樹の成熟とともに、都田地区の農業振興拠点及び奥浜名湖地域におけるレジャーシンボルとして定着し、20 万人前後の有料入園者数を確保しております。

今後、隣接する第二東名の浜松浜北 SA へのスマート IC 設置の可能性を見据え、一層の魅力向上と誘客を図ってまいります。

(2) 市民・舘山寺温泉宿泊客利便のため、平成 20 年度も 1 月 1 日から開園いたしました。

(3) 職員数は、平成 19 年度の 52 人に対し、平成 20 年度は 49 人で運営いたしました。不補充対策として定年退職者の嘱託職員への身分切り替え等による労力の有効活用推進、現有人員の業務分担の見直し及び繁忙期での臨時雇用により対応し、来園者のサービス維持に努めました。

(4) インターネット等メディアを活用した園内情報発信を積極的に推進しました。

(ホームページアクセス数 フラワーパーク 573,024 件、フルーツパーク 776,280 件)

## 2 課題への対応状況と今後の方針

### (1) 対処すべき課題

類似施設の増加や無料観光施設との競合により、フラワーパーク、フルーツパークの入園動向に影響が出ております。

特に、フラワーパークから7kmの距離に「浜名湖ガーデンパーク」が立地していることにより、近隣の小中学生の遠足や、高齢者団体等の利用のほか、毎年4月に行われる「浜名湖フラワーフェスタ」等の大型イベント開催が、フラワーパーク、フルーツパーク両園の入園者数の推移に大きく影響を及ぼしています。これらの課題は無料施設と有料施設の競合という本質的な問題を内在していることから、有料施設が無料施設を凌駕するだけの魅力を打ち出せるかどうかにかかっております。

また、退職者不補充のため生じた職員年齢構成の不均衡化による園芸技術の後継者不足や世代間ギャップの解消が求められているほか、財務面においては退職給付特定資産及び運転資金の不足が危惧されています。

### (2) 今後の方針

行財政改革推進審議会の提言及び市行政経営計画に基づき、フラワーパークとフルーツパークの施設のあり方や実施主体、借地を含めた資産のあり方について、将来にわたる健全経営と市民サービスの維持が図られるよう、最小コストで運営できる仕組みを市と協議してまいります。

一方で、いよいよ平成21年度にフラワーパークで開催される「浜松モザイカルチャー世界博2009 浜名湖立体花博」に、当公社としても長年にわたり培ってきた豊かな知識・経験を還元するべく、浜松モザイカルチャー世界博2009協会と緊密に連携を取りながら、世界博の成功に向けた協力を行ってまいります。

財務面については、中長期の運営健全化を図るため、「事業活動によるキャッシュフロー」を経常的に黒字化できるよう努めてまいります。

不況による消費動向の低迷が続き、社会環境としては入園者の増加要因が乏しい状況ながら、フラワーパークとフルーツパークでは、両園の特色を活かした独自の企画や魅力の創出に努め、広域の誘客宣伝や団体客の取り込みを強化するとともに、料金面についても柔軟に対応できるよう検討します。

その他、平成24年度の引佐一御殿場両ジャンクション間の供用開始を目指し現在工事が進められている「第二東名」について、フルーツパークに隣接する浜松浜北SAへのスマートICの設置の可能性も視野に入れ、情報発信、交流促進の拠点としての機能の一層の発揮に向けた研究を進めてまいります。